

ON AIR

NO. **99**

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成22年9月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111(代)



CONTENTS

放送大学教授対談第5回	1
「Voice of Student」第2回	6
特集:公開講座	10
平成22年度学部・大学院開設科目紹介	12
学習センターだより	17
インフォメーション	19

放送大学教授対談
第5回

厚生労働省健康局

上田 博三 局長

放送大学

多田 羅 浩三 教授

21世紀の 健康づくり



2001年の中央省庁再編で、新たに発足した厚労省健康局。公衆衛生など国民の保健に関する分野を所管しています。今回の〈教授対談〉は、公衆衛生がご専門の放送大学教授 多田羅浩三先生に霞ヶ関まで足をのばしていただき、上田博三健康局局长と対談していただきました。テーマは「21世紀の健康づくり」。“健康は国民の幸せの基本”を信念とされる上田局長のメッセージにご注目ください。

※本文中は敬称略とさせていただきます。

21世紀

それは生活習慣病の時代

多田羅 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今回は「21世紀の健康づくり」というテーマで、国の保健事業を担っておられる厚労省健康局の局長としての貴重なお話を伺えましたら幸いです。早速ですが…今、私たちは21世紀の冒頭に立っています。そこでまず、20世紀の私たち日本人の“健康”について振り返ってみたいと思います。その際の指標の一つが平均寿命です。日本人は1986年に男女ともに



多田羅 浩三教授(左)と上田 博三局長(右)

世界一を達成。以来、女性は独走態勢、男性もスウェーデンなどと一位を争いつつ順調に数値を延ばしています。このことは、戦後復興期から比べると極めて大きな到達点で世界に誇ることのできる記録だと思いますが、その要因は何だったとお考えですか。

上田 その戦後復興期に、国民は、この国をよくしよう、発展させよう、そして幸福になろう、という気持ちを強く持っていました。そして、高度経済成長を遂げ、公衆衛生の社会的基盤となる上下水道が完備されました。国民の健康意識も高まり、予防接種などの感染症対策も採られました。第一線の保健師さんなどによる広範で継続的な公衆衛生活動に負うところが大きかったと思います。かつては百日咳で1,000人以上が亡くなった年もありましたが、今は数人以下です。併せて、個々人の食生活においても

改善が図られました。戦後飢餓期を脱し、「量」から「質」の確保へ。その中で塩分摂取量が減少し、栄養的に優れた日本食が見直されました。

多田羅 長寿化は、医療の充実を抜きにしても語れません。皆保険体制のもと、国民はいつでも、どこでも、誰でも医療を受けられます。その日のうちに血液検査やX線検査をしてもらえます。場合によっては入院させてくれる。また、内科、外科…といった専門医療を、自分の意志で直接利用できます。

上田 おっしゃる通りです。わが国における医療アクセスの良さ、医療従事者のモラルや技術水準の高さは世界的に見ても群を抜いています。

多田羅 ところが近年、「肥満」や「生活習慣病」といった言葉がマスコミに頻繁に登場します。生活習慣病の患者数や死亡者数について、20世紀にはどのような推移が見られたのでしょうか。

上田 1990-99年の10年単位で見ますと、患者数は心臓病では1.2倍、糖尿病では1.4倍、全がんでも1.7倍もの増加です。脳血管疾患（脳卒中）では大きな増加は見られないものの、1999年で147万人も患者が存在しています（図1）。死亡者数について1990-2000年で見ますと、全がんでは36%増、そのうち乳がんには絞れば57%、肺がん（気管・気管支含む）で47%、大腸がん46%、前立腺がんでは2倍以上の117%という大きな増加です。この背景には明らかに「高齢化」がありますが、70歳未満の死亡者数に限定しても、2000年には全がん約12万で、90年比11%の増加、乳がんには絞ると43%増、前立腺がんでは91%の増加でした（図2）。

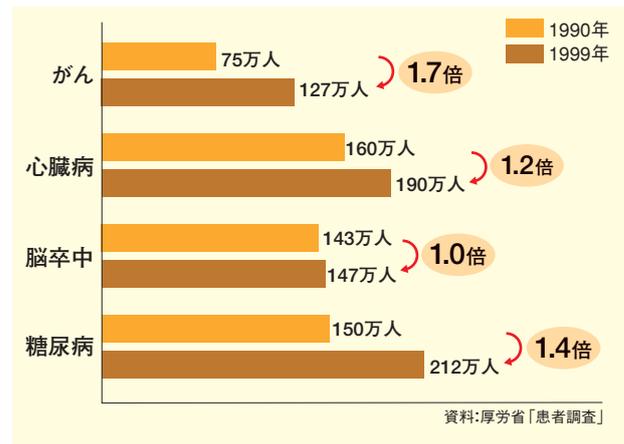


多田羅 浩三 教授
1987年大阪大学医学部教授（公衆衛生学）、2004年度より放送大学教授。現在、健康日本21推進国民会議委員、健康日本21推進全国連絡協議会幹事（企画部会長）、厚生労働省地域保健健康増進栄養部会委員、日本公衆衛生協会理事長。

多田羅 では、わが国は21世紀を迎える時点で、まさに生活習慣病時代を迎えることになった、と。

上田 感染症から生活習慣病への疾病構造の変化が如実に起きていて、生活習慣病による死亡者数は2008年度では全死亡者数の6割、国民総医療費の3割を占めるまでになっています。また、要介護

〈図1〉生活習慣病患者数の動向（1990-1999年）



〈図2〉生活習慣病死亡者数の動向（1990-2000年）

	1990年	2000年	増加率
全がん	217,413 108,985	295,484 121,313	136% 111%
胃	47,471 23,083	50,650 20,020	107% 87%
子宮	4,600 2,473	5,202 2,730	113% 110%
女性乳房	5,848 4,640	9,171 6,618	157% 143%
気管・気管支・肺	36,486 15,613	53,724 18,585	147% 119%
大腸	24,632 12,156	35,948 14,529	146% 120%
肝・胆嚢・胆管	36,104 20,059	49,134 20,867	136% 104%
前立腺	3,460 672	7,514 1,283	217% 191%
虚血性心疾患	51,437 12,969	70,183 17,810	136% 137%
脳卒中	121,944 29,120	132,529 26,435	109% 91%

資料：厚生省「人口動態統計」

の原因の約3割も生活習慣病です。2007年の糖尿病患者とその予備群は2,210万人です。脂質異常を指摘される方や高血圧症の方もそれぞれ4千万人を超えるというデータもあり、まさに生活習慣病の時代と言って過言ではないでしょう。

多田羅 となりますと、国民の生活習慣はどういう状態なのか、ということになります。

上田 その指標として喫煙、肥満などがあります（図3・4）。喫煙率については、男性では1990年に50%を超える高さでしたが、2000年までに数%しか減少せず、今でも30%を超えています。女性は若い層で増加しています。肥満者の割合では、男性は全年齢層で増加、女性では40～60歳では変わらず、若い女性では「やせすぎ」という問題が起きております。現代はストレス社会と言われますが、そこに健康にとってよくないこれらの習慣が関わり、その長

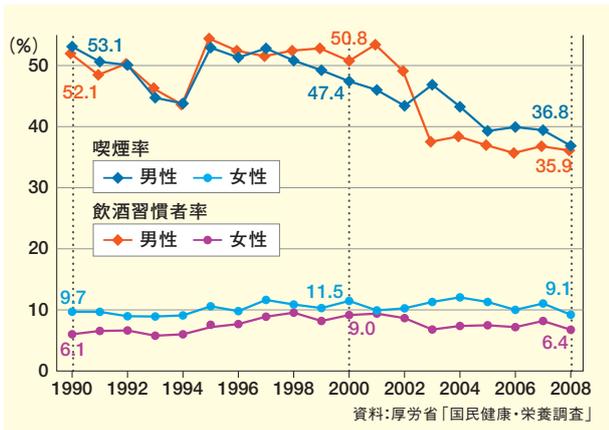
期の蓄積が生活習慣病となって現れているのだと思います。

予防重視の施策を推進、 一方で伸び悩む健診・がん検診受診率

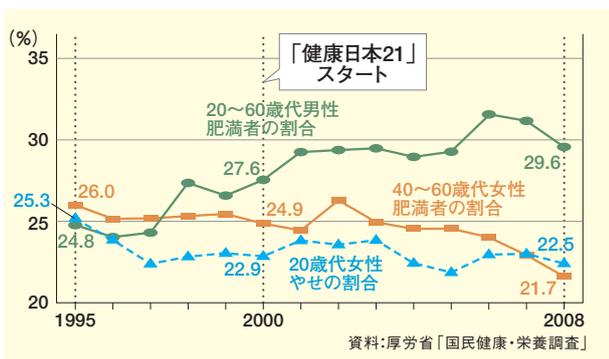
多田羅 医療が充実して国民皆保険体制なのに、生活習慣病で多くの方が亡くなっている。これは、わが国の医療保険制度の制度上の限界によるものではないでしょうか。つまり健康診断は給付の対象になりません。ですから症状がなければ保険制度を利用できない。生活習慣病の最大の特徴の一つは、あまり自覚症状がないことです。そして症状が現れ医療機関を訪れた時にはすでに手遅れ。結果として病院は手遅れの患者の治療に追われている。その先に生活習慣病による死亡者数の増加があるように思えます。

上田 医療や健康について考える時に、海外ではヘルスケアという言葉が使われます。健康づくりや予防の領域まで幅広く捉えられた考え方です。比して日本の医療保険制度では健診、がん検診は付帯的なサービスとして行われ、予防という観点が薄弱です。

〈図3〉喫煙率(20歳以上)と飲酒習慣者率の推移



〈図4〉肥満者およびやせ(20歳代女性)の推移



しかし、生活習慣病が国民の疾病負荷のかなりの部分を占めるようになってきた今、予防は国をあげて取り組まねばならない重要課題の一つです。今後は様々な制度を体系的に整備する必要があると思っています。



上田 博三 局長

1978年大阪大学医学部卒業、大阪府保健所、羽曳野病院麻酔科勤務。1984年厚生省入省。児童家庭局母子衛生課課長補佐、宇宙開発事業団宇宙ステーション開発本部員、環境省環境保健部環境安全課長、厚生労働省安全衛生部労働衛生課長、同 医政局医事課長、同 官房厚生科学課長などを歴任し、2008年7月より厚生労働省健康局長。

多田羅 生活習慣病の一つの特徴に、早期発見が可能、ということがあります。1982年老人保

健法が制定され、市町村による基本健康診査やがん検診が行われてきました。ただ受診率は、基本健康診査で2000年度に41.1%を達成していますが、がん検診の多くは10%台にとどまっています(表1)。

上田 胃・子宮・肺・乳・大腸の5大がんについて、厚労省では2007年に「がん対策基本計画」をまとめ、「2011年度までに受診率50%」を目標に掲げました。2007年の「国民生活基礎調査」では各がん検診の受診率はおよそ20~30%。皆さんも必要ながん検診を是非受けていただきたいと思っています。

国民の「健康になりたい」を、 社会が支える新しい健康づくりの時代へ

多田羅 2000年、21世紀における国民の新しい健康づくりを目指した「健康日本21」が発表されました。

上田 国民の意識調査では、健康に関心がある、健康が心配、という声は常に上位に挙げられます。健康は、すべての国民にとって幸せの基本です。ただ、国民の多くにとって、それでは具体的にどうすればよいかわからない。具体的な行動に移してもなかなか効果が見えにくいため持続しない、ということがあります。かと言って放っておくと気がついたときには相当病状が進行している、ということがあるわけです。国民の皆さんの「健康になりたい」という気持ちを支え、実現できる環境を作っていきたい、その責任がある、との思いから「健康日本21」を提唱いたしました。簡単に内容を紹介しますと、従来の健診による早期発見や治療にとどまることなく、

〈表1〉基本健康診査およびがん検診の推移

	1992年度		2000年度		
	受診者数	受診率	受診者数	受診率	
基本健康診査	936.8万人	33.9%	1,153.3万人	41.1%	
がん検診	胃がん検診	415.2万人	13.2%	420.7万人	13.0%
	子宮がん検診	399.2万人	15.4%	357.8万人	13.8%
	肺がん検診	587.0万人	18.3%	726.8万人	22.6%
	乳がん検診	285.3万人	10.7%	309.4万人	11.7%
	大腸がん検診	253.9万人	7.7%	548.1万人	15.8%

資料：財団法人厚生統計協会「国民衛生の動向」

健康を増進し疾病の発病を予防する「一次予防」に一層の重点を置く。生活習慣を改善し、健康づくりに取り組もうとする個人を社会全体で支援していく。健康に関する情報を社会全体で共有し、栄養・食生活、身体活動・運動、喫煙等の9領域70項目について目標設定して取り組む、というものです。

多田羅 その「健康日本21」推進のため、2002年には健康増進法が制定されました。この中で「国民の責務」として「健康状態を自覚し、健康増進に努めなければならない」と謳っていますが、「責務」というのはずいぶんと踏み込んだ言葉です。

上田 国民一人ひとりの健康になるための自助努力を促すということから使っているものです。健康は自分自身の問題であり、まずは自分で管理しなければなりません。他者から強制されてうまくいくものではありません。国民自らが健康な生活習慣に対する関心と理解を深めて生涯にわたってより一層の健康づくりに努めてほしい、との思いを込めた言葉です。国民のみなさんに「責務」を求める以上、国や自治体などもそれを支えるさまざまな手だてや政策を実行する「覚悟」が求められていると思います。

多田羅 2008年施行の高齢者医療確保法では「保険者による特定健診・保健指導の実施」が定められ、それまでの老人保健法による「税金による保健事業」は、「保険者による保健事業」へと変わりました。すなわち上意下達方式から協議・契約型方式になった。これは画期的なことだと思いますが…。

上田 特定健診・保健指導の実施者が保険者になり、その成果は直接保険者にも被保険者にも還ってきます。そのため、それぞれの現場でより主体的に工夫して取り組める仕組みになりました。しかし、国民

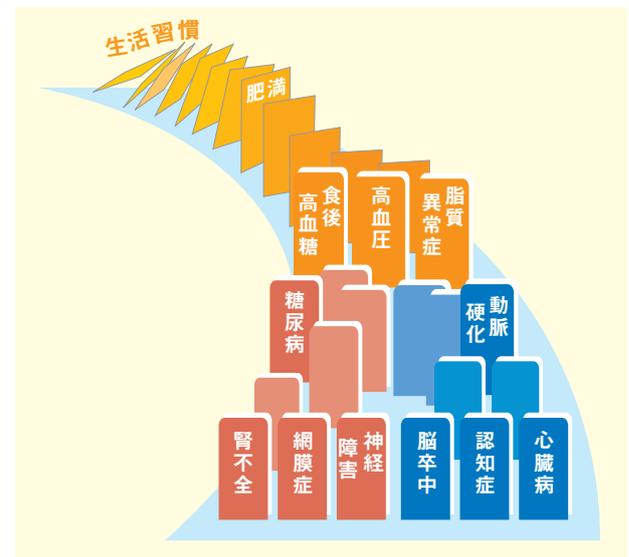
一人ひとりが健康になろうという気持ちにならなければ効果は出ません。画期的なことではありますが、この手法が本当に、国民の、特にハイリスク者といわれる方の生活習慣が変わるきっかけになるのか、が問われています。ハイリスク者にきちっとアプローチできれば、糖尿病で失明したり、突然心臓麻痺で亡くなる、ということは少なくなるはずですが。今後さまざまな評価を行い問題点を改善しつつ、その精度を高めなくてはなりません。

多田羅 「メタボリックシンドローム」が特定健診の対象になって、たちまち国民の大きな関心事となりました。経緯をお教えください。

上田 私は5年ほど前に健康担当の参事官でした。私の前任者が今WHOで活躍されている中谷比呂樹先生です。当時、国民の健康づくりへの自助努力を促すには何が一番効果的か、と彼と議論する中で、それは外見でわかるものがよいのではないかと、との結論になったのです。喫煙以外の悪しき生活習慣は、外からはなかなかわかりません。ある程度把握しようとする血液検査などを、となりますが、もっと簡単で目に見える形にした方がよい、と考えたのです。その結果、健診の1丁目1番地に肥満対策を導入しよう、それには体重計とメジャーこそが出発点だと。腹囲は外見からもわかりやすく、測定も簡単です。いわゆるポピュレーションアプローチとしては大変優れた手法だと思っています。

多田羅 腹囲は、血圧やコレステロールなどと異なる

〈図5〉生活習慣病の「上流」のイメージ図
(メタボリックドミノ)



り、国民自らが測定できます。「上流」(図5)への挑戦も可能とお考えですか。

上田 十分可能だと思います。ただ、肥満とは関連しない糖尿病や高血圧症もあり、生活習慣病すべての上流までさかのぼれるものではありません。ポピュレーションアプローチとしての腹囲測定、そして特定保健指導によるハイリスク者アプローチを組み合わせ、上流へ挑戦したいと考えています。

多田羅 21世紀は、管理型の保健事業から自発型の保健事業へ、それを社会が支えるという新しい健康づくりの時代にならなければならないと思います。社会の役割として、どのような展望をお持ちですか。

上田 先ほども申し上げましたが、国民の幸せの基本は健康です。長生きしても不健康では、幸せは半減してしまいます。私は、“社会化された疾病管理”と呼んでいますが、社会全体で健康な社会の実現を目指し、それを国民が実感できる社会にする。そのためには不健康を防止する健康づくり、いわゆる一次予防から始まり、少し不健康になった方の状態を改善したり進行を緩やかにする二次予防、さらに三次予防、と疾病をコントロールする、それも社会全体・全員参加で、ということが必要です。

多田羅 「健康日本21」は、第一期計画が2012年度に終了します。次の計画はどうなるのでしょうか。

上田 現在、中間評価を行っています。数値目標導入など画期的な面がある一方、ターゲットの絞込みが不十分で国民に意図が伝え切れていないのでは、との悩みもあります。新計画は時代に即した、より明確なメッセージを伴ったものになると思います。

多田羅 少し、本題から外れますが…昨年来の新型インフルエンザ対策ではひとかたならぬご苦労を重ねられました。今年、その第2波はどうなるのでしょうか。局長としてどう予測され、また前回の流行に当たってどんなことを感じられたのでしょうか。

上田 現時点で南半球の状態が落ち着いているので、日本でも今後の大流行は起こりにくいのではないのでしょうか。ただ、アジアでの鳥インフルエンザ流行は終息に至らず、決して警戒を緩めることはできません。今回は、手洗い励行や学級閉鎖など国民一体となった取り組みが功を奏し、およそ200名の尊い命が失われましたが、諸外国に比べ人口当たりの死

亡率は低くとどまっています。実は、この取り組みのおかげで他の感染症も減少したのです。一例として、インフルエンザから肺炎などを起こして死亡することを“超過死亡”と呼びますが、これも少なかったのです。例年、季節性のインフルエンザで数千人の方が亡くなりますが、国民のみなさんが一体となって取り組めば、インフルエンザの超過死亡や他の感染症も減らせるのではないかと意を強くしています。まさに公衆衛生活動のあり方を、新型インフルエンザ対策は示したのかな、と。

多田羅 国民が一体となれば、というお話は「健康日本21」と通じるものがありますね。最後に放送大学の学生のみなさんにメッセージを…。

上田 放送大学では、幅広い年齢層の方々が学生として学ばれています。それぞれ異なるご自身の健康状態をお持ちですが、共通して言えることは、健康は日々の生活習慣の積み重ねということです。今日の結果がすぐに明日出るものではありませんが、何年か先に必ず結果として現れます。ぜひ健康的な生活習慣を継続していただき、生涯学習を続けられ、社会のいいお手本やリーダーになっていただきたいと思っています。一方で、今日の社会は全く無理をしないで生きていくことはできません。私自身は、3つ以上の無理はしない、と決めています。仕事が大変、寝不足、そんなときは飲酒は控える、という具合です。皆さんも自分なりの健康秘訣を見つけられて、今後大いにご活躍されることを祈っております。

多田羅 とても貴重なお話、ありがとうございました。



(対談は、2010年7月9日に行われました。)

Voice of Student

Vol.2

在学生・卒業生の
声をお届け

今号の声 仕事、暮らし、目的を持って学ぶ在校生たち

第2回の今号では、主に働きながら仕事・生活の中から生まれた目的、目標を実現している方々をご紹介します。「思い立ったら、すぐスタートラインに立てる」「仕事に役立つだけでなく、趣味・教養面の幅を広げてくれる」「多彩なカリキュラム、幅広い分野の講師・人脈が熱意に応じてくれる」…。放送大学で、期待を持って学ぶそれぞれの学生たちに、放送大学を上手に“活用”して自分の夢に一步步近づいていくその思いを聞きました。

case 1

人間、夢をあきらめず、
個性を大切にすることが大事。
放送大学なら、
夢をかなえてくれると信じています。



渡辺 晴俊さん
放送大学教養学部
社会と産業コース
全科履修生

車・バイクのクラッチを生産している会社に入社して30年勤めています。入社後、上司のすすめもあり、電気の専門学校で「電気工事士」の資格を取得しました。その際「これから毎年ひとつの資格を取ろう！」と心に決め、講習会にも積極的に参加し約60程受けました。

昔からバイクが好きで、モトクロス・エンデューロレースに参加し、大型バイクの資格をとり、BMW



大型バイクの免許を取得。愛車ハーレーと。

とハーレーを乗り継いできています。

バイクもある。家庭もある。課長にもなれた。PTA会長もやった。しかし、ぽっかりと穴が開いている感じがしていたのが学歴でした。放送大学と出会い、新たに学ぶことを決めました。社会と産業コースを専攻。学んだことは仕事にも活かせるので、職場での生産性向上活動や品質管理活動に役立っています。「管理会計」などは、まさに製造工程の原価算出方法の基本で、仕事にも直結した学習内容でしたね。これからは宇宙を旅するような時代がきます。その機体の一部を生産したいという夢があります。そのためには、宇宙の仕組みを学び、材料とのつながりを研究することが必要となります。現在勤務する会社は、摩擦材のメーカーでもあるので、その分野で付加価値のある製品ができないか考えています。卒論のテーマにする予定です。

もうひとつの夢は、自分の経験を活かした教育訓練のノウハウを次の世代に伝えていきたいということです。私はイギリスに6年間赴任したこともあり、イギリスの大学でイタリア語を学び、世界からの視点や価値観も肌で感じてきました。また様々な講習会などで体験したことも含め、若い世代の方々に受け継いでいきたいと考えています。

これから放送大学を目指す方々には、「人間、夢をあきらめないこと。その夢は放送大学でもかなえられること。」をメッセージしたいですね。自分を

大切にし、個性を大切にしてほしいと思います。放送大学で私と一緒に夢をかなえましょう！と言いたいですね。

case 2

**放送大学で得た知識や体験は、
現在の仕事にも役立ち、
将来のための準備としても
活用することができますね。**



下川 真実さん
放送大学教養学部
発達と教育コース
全科履修生

母が9年前に放送大学で学んでいたのので、私も興味を持ち、今ではふたり一緒に学習しています。

現在はショップ店員として働いていますが、学習の内容は接客場面でも役立ちますね。面接授業で、グループでロールプレイングなどをやりましたが、その時の先生の指導で「沈黙は悪いことではない」ということを教えていただき、とても気が楽になったのを覚えています。また、仕事の接客上でも必要な物怖じしない姿勢や心構えも、こうしたロールプレイングを通じて身につけられたと感じています。おかげで、職場でも笑顔の接客で、最近ではお客様からもご指名をいただくなど、ショップ店員としての誇りもでてきました。それと、心理テストや知能検査などを受けることができ面白かったことも印象に残っていますね。

今後の目標としては、スクールカウンセラーや特別支援教育などにも関心があるので、将来的には養護施設など、福祉教育の現場で働いてみたいという希望があります。まだ一般的になっていない学習障害児の理解や心と行動などを勉強し、私に何ができるかを考えていきたいと思っています。ヘルパー2級の資格も持っているのので、現場で使える資格の技能と、放送大学で学んだ知識をうまく活用しながら、

希望の職場にめぐり合えたらいいなと考えています。放送大学の良さは、自分の興味・関心や、やってみることに気づいたら、すぐに始められるところにあると思います。いつからでもスタートラインに立てるということは素晴らしいことだと思いますね。私も学習の内容を現在の仕事にも活用し、さらに先の新しい希望の仕事に就くための力を身につけるためにも活かすなど、目的に応じて様々な準備に役立てていくことができていると感じています。先生方の教え方も上手で心強いですし、様々な年代の方々とも接する機会があるので、自分の人生にプラスになることがとてもたくさんあると思います。

case 3

**結果として学士の学位が
ついてくるという気持ちで、
楽しく学ぶプロセスを
味わっていきたいと思います。**



石井 清彦さん
放送大学教養学部
生活と福祉コース
全科履修生

火力発電の会社で人事労務の仕事をしていますが、仕事のステップアップのために過去に2回学んだ放送大学での学習がとても順調だったので、さらに全科の生活と福祉コースで学んでいます。今までは旧カリキュラムにあった「産業と技術」と「社会と経済」を学びました。今回のコースの必要単位を修得すると3回目の卒業となるので、全コース制覇のグランドスラムを目指して頑張っています(笑)。

もともと、仕事に役立てようと学び始めたので、経済や経営関連の科目では、経営者としての視点が学問的に学べたことが良かったと感じていますが、放送大学の学習は、仕事の面で役立つだけでなく、趣味や教養面での幅も広がってくれます。「わくわくクラシック」という面接授業で、楽団の楽器編成な

どクラシック音楽の基礎を勉強し、最終のコマで、オペラ「トゥーランドット」を鑑賞し、とても楽しく過ごせたのが印象に残っています。以前からクラシック音楽を聴くことが好きでしたが、きちんと学習したことで、音楽や楽器に対する視点も深まり、鑑賞の楽しさも広がりましたね。今回は、社会の中での表現技術や社会生活の実践面での知識を身につけることで、地域社会での活動に役立てたり、人生を豊かにするために学ぼうと考えていたので良かったですね。

もちろん卒業を目指しますが、最初から学位だけにこだわらず、負担にならないよう楽しく勉強していくことが大切だと思っています。結果として、学士の学位がついてくるという感覚で学んでいけば、一つ一つの科目の中にも新鮮な発見がたくさんあります。無理することなく、自分のペースで学ぶ楽しさや広がりを味わっていくことが、私流の学び方だと思っています。学習センターの所長先生にも気軽にお話していただいたり、学生の中にも自営業など自分とは違う生き方をされてきた方もいて、新しい仲間作りもできるので、こうした出会いも大切にしていきたいですね。

case 4

わくわくするような研究テーマを探究していくこと、臨床心理士の資格取得など、学びで夢が広がります。



野口 佳奈子さん
放送大学教養学部
心理と教育コース
全科履修生

大学職員として学生支援関連の仕事をしていく中で、学生からも様々な相談を受けていました。「これは私自身をもっと専門的な知識を身につけなければ…」と感じ、放送大学で「心理と教育」を学ぶこ

とを決めました。

実生活や将来への目標などから、科目ごとに学ぶ目的をしっかりと持つようにしています。

たとえば、「運動と健康」は子供がスポーツをしているために知識を身につける、「心理臨床とイメージ」ならば目標である臨床心理士を目指すため、「思春期・青年期の心理臨床」は、子供が思春期であること、職場の学生の対応にも必要、「スクールカウンセリング」は学生の相談を受ける際に参考にできる、などです。

社会人学習の良さは、仕事と実生活の中から学びたいことが発生してくることが多く、目的が明確な分、理解の幅が広がる場所ですね。たとえば、実際のカウンセリングの映像を使った講義などは、話し方、問の取り方、口調など、実践的なことがものすごく役立ちました。それだけでも、職場での学生対応にすぐに活かそうと感じたほどです。

面接授業では、先生のハツラツとした指導のおかげで、気分をほぐしていただき、自分の体調がすぐれない時に気持ちを助けていただいたと感じています。

それと、やはりわくわくするような研究テーマの探究も魅力です。私は以前から人生について考えるとき「論語」などの指針となる教訓を得られるような書物を読んで共感を覚えていました。ある時から、このような人生の指針となる「書」を持つと心理的にどのような影響や効果をおよぼすのか、ということが自分の命題となってきました。今はぜひこのテーマで卒業論文をまとめてみたいと考えています。

もちろん臨床心理士の資格取得という大きな目標もありますが、生涯学習的なテーマを持って学んでいくことで、自分の好奇心も満たせるチャレンジもしていきたいですね。もっと早く始めていれば良かったと感じることもあるので、放送大学での学びはおすすめです。



case 5

**事業を運営しながらでも、
学ぶ楽しさを実感できました。
しっかり単位をとって
「大卒資格」を手にしたいです。**



谷口 允さん

放送大学
選科履修生

ホームページを制作する事業を立ち上げて、現在8年目。妻とアルバイトが1名という小さな体制ですが会社を運営しています。その間なんとか仕事を頑張ってきましたが、ビジネス書などで付け焼刃的な知識を身につけるよりも、やはり経営やビジネスに関する知識をしっかり学び、大学を卒業しようという想いで放送大学への入学を決めました。

現在は、選科で「デザイン工学」「初級簿記」「組織運営と内部監督」、そして「英語購読」などを取得しています。ビジネス系の科目は、企業の運営や経営学というベースの知識をレベルアップさせていくものなので、長い目でみて役立っていくものだと感じています。

短期的な視点で見ると、これから仕事でも必要だと感じて選択した「英語」がとても理解しやすく、基本的な学習がとても役に立つことを実感しました。英語科目の関連で受けた面接授業が印象的でしたね。他の受講生の方々とグループを組み、英文法などについてのディスカッションをしていくのが新鮮で、日常の仕事では出会えないような方々との交流はとても貴重な体験でした。先生方のご指導も直接受けてみると、とても安心感のある雰囲気の中で学ばせていただくことができました。

今後も、事業を運営しながらの学習になりますが、しっかりと単位を取っていき、卒業したいと考えています。私自身、自分で事業を始めましたが、社会に出てから、「大学卒」ということの重要性に気づ

いたと感じています。社会人大学への入学を模索していた頃には、放送大学で「大学卒の資格」が取得できるということを知りませんでした。世の中には、社会に出て働きながら、大卒資格を取りたいと考えている方が数多くいらっしゃると思います。放送大学なら、仕事をしながらでも、きちんと学び続ければ、その夢が実現できます。その事実をもっと多くの方々に知っていただき、目標を持って進んでいただければと思いますね。

case 6

**旅行経験のある好きな地域の
歴史や文化を学び始めたら、
新しい好奇心の扉が開き、
ずっと学びたい気持ちです！**



須田 陽子さん

放送大学教養学部
人間と文化コース
全科履修生

ヨーロッパや地中海を旅行してきた経験があり、オリエントや古代の文化・歴史には、もともと興味を持っていました。新しいことにチャレンジしたいと思っていた頃、夫からの薦めもあり、放送大学で歴史や文化などについてもっと深くを学ぶことを決意しました。

放送大学で学ぶことで実感したことは、学び続けることで生まれてくる新たな好奇心が次の世界への扉を開いてくれる、ということですね。

はじめは、好きな地域の科目、地中海の歴史や考古学的なことに関心があり、「古代ギリシア」「現代スイス」など、旅行の経験のある国や場所について学ぶことが楽しかったのですが、他の科目も学び始めてみると、さらに探究していきたいという気持ちが強まりましたね。たとえば、天文学などの「宇宙」への関心や、地球のしくみ、星や気象といったことまで、どんどんと興味が広がっていきました。

先生から直接お話しを聞くことができた時に「天文学は、宇宙の考古学ですよ。」と教えていただき、その言葉がとても印象的で、私自身の次なる学びの扉を開いていただくきっかけになったような気がします。

放送大学では、様々な年齢の方々が学習されていて、私よりも人生の先輩の方々の学ぶ姿に刺激を受けています。また、必ずしも仕事の延長上の学習や資格取得が目的で学ばれている方だけではないので、私のように知識を深めたいという方々にも充分応えてくれる内容です。豊富な科目が用意されているので、興味の幅を広げてくれる学習環境が整っていると思いますね。資格取得や仕事のための学習に関する情報とは違い、教養的な好奇心を探究できる場についての情報は少ないと思いますが、放送大学なら、まさに生涯学習として、自分の探究心を満たしてくれる科目や授業があります。

私自身、まだまだ、学び始めたばかりなので、古代文明から、地球や宇宙のことまで、ずっと学んで、探究し続けていきたいと思っています。

case 7

学術的な見識を備えることで 社会的信用度もアップ。 専門知識を活かして 社会貢献していきたいですね。



小田 順子さん
放送大学大学院
文化科学研究科
文化情報プログラム履修生

3年前まで区役所に勤めており、広報で公式サイトを担当していました。公式サイトの改善を行う際は、別の大学の通信講座で学んでいました。その経験を生かして、役所の外に出て、サイト制作やライターの仕事をしてみたいと思い独立。

仕事をしていく中で、信頼を得るために、研究者として専門知識を身につけたいという気持ちで入学

を決意しました。国語学の視点と、情報学的な視点を横断的に学べるシラバスや教授陣がそろっていると思ったのが放送大学だけだったからです。目的が明確だったので、放送大学のカリキュラムの豊富さ、柔軟性に魅力を感じました。

たとえば「ことばと情報」のように、「ことば」というものを言語コミュニケーションから学べるものと同じ「ことば」というものを「計算論」のように、計算言語学から学べるものが自由に選択できることがとても良かったです。情報をわかりやすく伝えたい、WEBなどのツールを使って広く伝えていきたい、という私の学習目的を満たしてくれます。言語学、国語学、統計的手法、アルゴリズムなどが横断的に学べ、多彩な講師陣も魅力です。

「社会に貢献したい」という思いを持って学べば、多彩なカリキュラムや幅広い分野の先生方が必ず応えてくれます。他大学には無いメリットがいっぱいです。

研究課題は、行政の情報を「わかりやすく伝える」ということです。これは、司法の分野、教育分野などに応用できるので、限りない可能性を感じています。「学者」として、学術的な見地で情報発信し、社会的な信頼度を高めていくことで、さらに活躍の場が広がると思います。

執筆と講演とWEB制作の活動を通じて、行政、司法、教育などの業界との『通訳』的な役割を果たせていければと考えています。



公開講座

放送大学25周年記念特別公開講座として、文部科学省との共催で「無縁社会～崩壊する人間関係の絆の再生に向けて～」が8月11日、東京・霞が関の中央合同庁舎内講堂を会場に開催されました。18時半から、という夜の開催にも関わらず約500名もの聴衆の方々が参加され、会場はほぼ満席状態。熱心にメモをとられる姿が見られるなど、「無縁社会」に対する関心の高さをうかがわせました。

500名の聴衆を前に、
無縁社会の実相に迫る

1部 基調講演 講師／宮本みち子教授（放送大学教授）

2部 問題提起 講師／内橋克人氏（経済評論家）

3部 パネルディスカッション

1.現場からの報告 講師／板垣淑子氏（NHK報道局ディレクター）

板倉弘政氏（NHK報道局記者）

2.パネルディスカッション 宮本みち子教授 内橋克人氏 板垣淑子氏 板倉弘政氏



（左から）宮本みち子教授、内橋克人氏、板垣淑子氏、板倉弘政氏

講座は3部から成り、1部では放送大学 宮本みち子教授による基調講演が行われました。

宮本教授は長年ワーキングプアの問題を扱っておられ、NHKスペシャル「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない～」(2006年)をはじめ多くのNHKの番組作りに参加されています。そして、同じくその準備段階から関わられたNHKスペシャル「無縁社会～“無縁死”3万人の衝撃」は1月末に放映され、視聴者の間で大きな反響を呼びました。そして4月にはNHK特別番組「無縁社会～私たちはどう向き合うか」に自らゲスト出演され貴重な提言をされています。

(http://www.nhk.or.jp/asupro/life/life_06.html)

「つまづく若者」をテーマに10数年研究を続けてきたが、そこにある問題は若者だけにとどまらない、世代間を超えて日本全体に広がってきているように



基調講演を務めた宮本みち子教授

感じていた。その結果「無縁社会」に行き着いた」と語る宮本教授。基調講演ではその無縁社会の背景となる要因を、“社会的孤立”“貧困”“複雑・多様な生活困難”“家族、地域

の変容と弱体化”をキーワードに読み解くと同時に、「近代の行政組織はリスクを分化させ対応するという旧態依然を繰り返した。その結果の縦割り行政では、今ある諸問題には機能できなくなっている」と断じられました。続いて、折しも連日報道が続く「超100歳の行方不明者問題」にも触れられ、「無縁社会の一現象。お祝いの対象となる超100歳だから高い関心を集めたが、90歳、80歳と対象を広げるともっと大規模な問題が見えてくる」と述べられ、会場の深いため息をさそいました。さらに「公的制度の問題」では、家族の世話は基本的に家族がやっているという前提にした制度設計であり機能不全に陥っている、「家族の絆について」は、超長寿化に対しての家族の力には限界がある、お金・仕事・病気・事故などが重なって、絆が崩壊しているが、みんなが貧しかった時代の共感がなく、条件に恵まれた人々からは冷淡に扱われる、など鋭い指摘が展開されました。

(宮本教授による基調講演は、「現代の生活困難の特徴」「秋葉原事件の公判記録」と続きましたが、紙面の都合で割愛させていただきました)

2部、3部を含む講座の内容は、10月30日(土)・31日(日)23時より、放送大学チャンネルにて放送いたします。ぜひご視聴ください。

アグリビジネスの新たな展開（'10）

—豊かな食生活への貢献—

放送大学教授（社会と産業）河合 明宣 京都大学名誉教授（放送大学客員教授）稲本 志良

団塊世代が担ったものづくりを軸とした右肩上がりの経済成長の時代から、私たちは今、生活の質を求める、成熟した少子高齢化社会への入り口にいます。この時期に農業ブームともいえる関心が広がっています。市民農園、家庭菜園での作物の栽培は、運動による健康をもたらします。また、周囲の人たちとのコミュニケーションや食べきれないもの、旬のものなどのやりとり・分かち合いを育てます。ブームの背景には、健康と安全・信頼できる食への大きな期待があると思われます。

もう一つの背景が考えられます。近年、植物工場に代表されるIT制御の野菜栽培やバイオテクノロジー活用の育種・花卉園芸など、先端技術を活用した農業関連産業への新規参入機会が広がっていることです。食品製造業、流通業、外食産業間の連携と

競争により、農業と他産業との繋がり（農商工連携）が深まり、市場規模が拡大しています。

中山間地での農家の後継者不足、製造業の海外移転による国内産業の空洞化などは、他産業の技術や経営経験を持つ人材やリース方式で農業参入する企業に対してビジネスチャンスを生みだしています。海外展開する企業や法人化した農業関連産業経営体が育っています。

農業ブームには、この二つの動向が絡み合い、日本農業の将来像、担い手像を捉え難くしています。私たちの生存は、空気、水に次いで食料に直接、依存しています。豊かな食生活はどうあるべきか。著者一同、本科目を考える手がかりとして、充分活用して頂きたいと願っています。



河合 明宣 教授



稲本 志良 教授

功利主義と分析哲学（'10）

東京大学大学院教授（放送大学客員教授）一ノ瀬 正樹

日本では、「功利主義」は倫理学説としてどうも受けが悪いようです。「功利」を前に出すなんて、倫理になるはずがないではないか、と。しかし、これほどの単純な誤解が流布しているというのは、どう考えても知的な損失です。詳しくは講義や教科書に譲りますが、きわめて簡略的に言ってしまうと、「功利主義」とは、「自分がこの行為をしたら、その後人々にどういうことが生じるのか」という気配りを第一に考える道徳説です。したがって、「功利主義」は、これをしたら「どうになってしまうのか」という考慮なしに、とにかく正しいのだから行う、というような立場と対照されます。私は、実際人々は、何かをするとき、「どうになってしまうのか」という考慮をしていると思うし、そこに道徳性を感じもします。こういう訳で、少しでも「功利主義」への誤解を解い

ていただくこと、それを本科目の目的に据えました。

他方、「分析哲学」は、おもに英語圏で展開されている、巨大な哲学の潮流です。論理性、実証性を重んじるという、ゆるい共通性のもと、広範囲の問題に沿って活発な議論が行われている分野です。私は、本科目において、「経験論哲学」を「分析哲学」の源流と捉えるという観点から、この重厚な「分析哲学」の動向を切り分けてみました。「帰納」、「不確実性」といった概念がキーワードとなります。実は、この「分析哲学」の動向は、物事を計量化して捉えていくという点で、「功利主義」とも融合していくのです。その辺りの次第も勘案したつもりです。現代哲学のスリルを味わいつつ、楽しく学んでいただければ幸いです。



一ノ瀬 正樹 教授

太陽系の科学('10)

放送大学教授 海部 宣男 放送大学教授 吉岡 一男
(自然と環境) (自然と環境)

いま探査ロケットが太陽系の全域にわたって飛び、惑星や衛星の驚異的な風景を地球に送り続けています。大口径の望遠鏡で太陽系の外縁に始原的な小天体群（太陽系外縁天体）が多数発見され、冥王星もその一員であることが分かりました。金星や火星などの理解が進み、地球を他の惑星との比較でとらえなおすとともに、太陽系の46億年にわたる歴史が読み解かれるようになりました。まさに科学の宇宙空間への進出が開いた、太陽系新時代です。さらに画期的な進展は、太陽以外の無数の恒星を回る惑星＝太陽系外惑星が続々と発見され、生命存在の可能性も含めて研究が進もうとしていることです。

いっぽう、人類の活動が急激に拡大した結果、地球環境への人間活動の影響や文明の未来が、社会的に大きな関心を呼んでいます。私たちが住む世界を



海部 宣男 教授



吉岡 一男 教授

より深く理解することは、21世紀のいまかつてなく重要であり、太陽系と地球の理解は、現代市民がもつべき基本的教養として欠かせないものになりました。

この講義では、各分野で活躍する教授陣が新たな発展を広く網羅して、太陽系と地球について現代科学が獲得した斬新な見方を提供します。放送授業では、各地のロケやサポーターの岡山裕子さんとの活発なやり取りを通じて楽しい授業を展開します。新しい太陽系観・地球観を身につけ、大きな空間と時間スケールで生まれ進化してきた地球生物と人間を考える、科学的・歴史的な視野を育てて欲しいと思います。

The Political Economy of Japan ('10) —Growth, Challenges and Prospects for a Well-Being Nation—

同志社大学教授 林 敏彦
(放送大学客員教授)

この科目は放送大学初の英語による科目です。シラバスも、放送教材も、印刷教材も、通信指導問題も、単位認定試験問題も、すべて英語で作成しました。正確に言うと「グロービッシュ」で作成しました。グロービッシュというのは、グローバル・イングリッシュという意味で、歴史や文化に裏打ちされた正調の英国語でも米国語でもなく、世界中の人が意思疎通のために使っている言わばブローケン・イングリッシュのことです。

内容的には、日本の政治経済について、1955年以降の高度成長から今日までのマクロ経済の歴史を振り返り、財政、社会保障、格差問題、労働市場の変化、環境、エネルギー、日本の市民社会、グローバル時代の日本国憲法、激動期の日本・米国・中国関



林 敏彦 教授

係のあり方など現代日本が直面している課題について考え、最後に2050年ぐらいまでの日本の将来を、ウェルビーイング社会として展望しようとしています。各回のゲストには、日本を代表する方々に出演していただきました。

これから多くの日本人にとって、ビジネス、生活、文化、観光などさまざまな場面で、英語で日本のことを説明する機会が増えていくと思われます。この科目がそういう人々の勉強に役立ち、英語圏の人々が現代日本を知るのに役立つならば、ディレクターや編集者と共に、苦勞して作った側にとっての喜びは大きいのですが。

心理学史（'10）

上智大学名誉教授
(放送大学客員教授) 西川 泰夫

東京国際大学教授
(放送大学客員教授) 高砂 美樹



西川 泰夫 教授



高砂 美樹 教授

当科目は、「心理学史（'05）」の改訂版として立案・計画され、印刷教材・放送教材ともに前の成果を踏まえ、またそれ以降の当科目担当者らによる「心理学史」研究の深化と新たな視点や史資料をもとに更新し執筆・収録されたものである。

前者が「日本の心理学」が成立する前夜から、その黎明期、その後の定着と展開そして現状に至る拡大の道程を主として取り上げ、いわば我が国固有の心理学の展開を組織的・体系的に明らかにした日本の心理学史のはじめての専門書にもあたるのに対し、当科目の一つの特色は日本の心理学の位置づけを、さらに世界の心理学史に重ねその相対的な位置づけをはじめ、その前史にあたる哲学的背景などを含み、当学問体系の広がりやできうる限り包括的に明らかになるよう試みたものである。

心理学分野
の学びにおいて、

「心理学史」の役割と意義は、この学問に固有の心理学入門・概論をはじめ心理学研究法、心理学実験実習・演習、そして各専門個別科目などの基本体系に加え必須の科目となるものである。学びの対象である「心理学」それ自体の成立背景やその趣旨、物の見方・考え方などの広く人間観などの変遷の跡を現在に復元し、現状から将来に向けてより豊かで多様な社会の実現に資する人間理解をはじめ、各自の創造的な自己実現に当たり取り組むべき課題などを、具体的にまた実践的に知る機会となろう。

そもそも心理学とはいかなる学問であるのか、その基本性格を知り学ぶ上で欠かせない情報を多彩に提供する。

微分と積分（'10）

放送大学教授
(自然と環境) 熊原 啓作

放送大学客員教授 押川 元重



熊原 啓作 教授



押川 元重 教授

この科目は共通科目ですが、微分積分を初めて学ぶ方、高等学校でごく一部しか学ばなかった方、あるいはずっと以前に勉強したことがあるが改めて学び直したい方、そうした方たちが学び理解できるように作ってあります。とはいえ、数式や記号ははじめのうちは抵抗があるものです。数式や記号も言葉です。繰り返すことによって慣れることが肝心です。

いろいろな図形の面積を求めることに起源を持つ積分や、物体の運動を記述するために開発された微分は、精密科学や工学などにおいて欠かすことのできない基礎であるとともに、生物学、経済学、社会学などデータを扱う分野でも必要な道具となっています。最近では人間科学や人文科学にも応用される例が数多くあります。

数学は与えられた問題を解く

ことがすべてと思ったり、数学は計算だと思っている人が多くいます。講義で出される問題は理論を理解するために、また理解に必要な計算力を付けるためにあります。大切なのは数学の理論の流れを把握し理解することです。一般的に数学は論理的に記述されます。すなわち結論には仮定、前提があり、仮定が異なれば結論も異なります。常になぜそうなるのかを自問しながら進む必要があります。この授業は入門ということもあり、論理的な完璧さを追っていませんが、その解説の裏には論理の流れがあります。論理的に考える力を付けることも学習の目標にさせていただくことを希望します。

中国語入門Ⅱ('10)

放送大学准教授
(人間と文化) 宮本 徹

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) 木村 英樹



宮本 徹 准教授



木村 英樹 教授

この科目は「中国語入門Ⅱ('05)」を改訂したものです。科目としての基本的な考え方に変更はありません。つまり、「入門Ⅱ('10)」は「中国語入門Ⅰ('10)」の後を承け、初修中国語の後半部分を構成するという事です。ここでいう初修中国語とは、初めて中国語の学習に取り組む皆さんが、中国語に関する一通りの基礎を身につけられるような科目としての中国語を意味します。それは言い換えるならば、これを学び終えた後、皆さんは辞書を片手に「独り立ち」して中国語の世界に飛び込むことができるということです。「入門Ⅰ」のみの履修ではまだその道半ばといったところですので、ぜひ引き続き「入門Ⅱ」を学習して中国語の基礎を固めてください。

「入門Ⅱ」の題材は中国語に関わるエッセイや昔話

風の物語です。扱う内容は、漢字の祖先である甲骨文字発見の物語から方言の違いが引き起こしたユーモラスな笑い話まで多岐にわたりますが、これらはいずれも中国語という言語がもつ空間的な広がりや時間的な奥行きを感じさせる話ばかりです。中国語を学ぶ楽しみの一つは、この言語のもつ歴史の長さや広大な国土で話されるが故の多様性を感じる事です。この教材からはそのような中国語世界の一端が垣間見られることでしょう。「中国語入門Ⅰ」を終えられた皆さん、ぜひともこのような「入門Ⅱ」に挑戦してみてください。

生涯学習の理論と実践('10)

お茶の水女子大学教授
(放送大学客員教授) 三輪 建二



三輪 建二 教授

放送大学の印刷教材には、麻生誠元副学長の『生涯教育論』、麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』、堀薫夫・三輪建二『新訂生涯学習と自己実現』、岩永雅也『生涯学習論』があります。今回は〈おとなの学び〉という視点を織り込んでいる点に特徴があります。

「おとなには豊かな人生経験があり、それらを積極的に活かすことで学びはより生き生きとしたものになるのではないかと…」 「おとなの学習者一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、本人の自主性や人生経験を引き出すような学習支援が求められるのではないかと…」 「おとなの学習を支援するアートと科学」である成人教育学というアイデアは、一人ひとりの学びを大事にすることにとどまらずグループでの学習活動を、さらには（少し大胆かもし

れませんが）、学習者が所属する団体や組織を〈学習する組織〉〈学びあうコミュニティ〉にしていくことができるのではないかとという考え方が含まれます。

おとなの学び、成人の学習というアイデアには、放送大学などでの講座型の学びだけでなく、ボランティア活動やNPOでの活動など、学びというイメージには入らないようなところにも、豊かな学びがあるという考え方も貫かれています。

おとなの学びのイメージの広がりを、授業を通して確認し、放送大学大学院生である自分の学びをふり返り、いっそう豊かなものにしていく機会になればと思っています。

精神医学特論（'10）

放送大学教授
(臨床心理学プログラム) 石丸 昌彦

さいたま市立病院精神科部長
(放送大学客員教授) 仙波 純一



石丸 昌彦 教授



仙波 純一 教授

メンタルヘルスの悪化が社会問題となって既に久しく、最近では新聞紙上で「うつ」や「ストレス」の文字を見ない日はありません。年間3万人を超える自殺者も、その大多数は精神疾患に罹患しているながら、十分な援助を得られていなかったものと推測されています。わが国のメンタルヘルスは国際的に見れば決して悪くないのですが、国内では既に最大の健康問題のひとつとなっています。精神疾患に関する正しい知識理解を持つことは、今やすべての人々にとっての関心事と言えるでしょう。

この科目は、臨床心理プログラムの一環として開設されています。同じ執筆陣による二度目の改訂で、2002年度以来のロングランとなりました。医師などと違って自然科学や医学一般の基礎教育を受けていない心理学領域の人々に対して、精神医学の概要を

伝えることを当初から目的としています。概要といっても、現場で患者さんの援助にあたる作業を支えるものですから、内容を薄めることはできません。症例を用いて具体的に解説したり、分かりやすい図表を随所に織り込んだり、教材作成には毎回工夫を凝らして水準の維持に努めてきました。受講者の皆さんも熱意をもって取り組んでおられることが、さまざまところから伝わって来ます。

臨床心理士やそれを目ざす人々はもとより、精神保健福祉士や精神医療関連分野、さらにはメンタルヘルスに関心を持つ一般の方々に、幅広く活用していただけることを期待しています。

生命環境科学I（'10）—生物多様性の成り立ちと保全—

放送大学教授
(自然環境科学プログラム) 松本 忠夫



松本 忠夫 教授

現代の地球上には、非常に多数の生物種が存在している。しかし、この数百年でヒトというたった1種の生物が異常にはびこり、残りの様々な生物を著しく圧迫してきている。ヒトは農耕地や植林地や牧場を拡大し、農作物、植林樹、家畜などのごく少数の種を著しく増やした。結果として数多くの野生生物が絶滅し、また絶滅の危機に瀕していて、地球上から生物の多様性が急速に失われてきた。このような生物多様性の危機問題は1985年頃から大きく唱えられ、すでに20年以上になっている。なぜ、生物多様性が重要なのかという問いに対する回答は、「一度失われてしまった生物は、二度とよみがえらないから」ということにつきる。そして、生物多様性を保持するには、「どんな生物も、地球における生物

進化史上のかけがえのない遺産である。」という根底的な認識が必要である。そこで、本科目では、生物多様性の成り立ちを理解するための基礎知識として、生物進化のロジックを説明すると共に、生物における遺伝情報の表現型への発現メカニズムを説明する。そして、具体的に生物多様性がどのような時間経過でどのようにして生じてきたのか、個々の生物が実際の生態環境に適応するメカニズムはなにかといったような課題をとりあげる。さらには、フィールドにおける生物多様性の調査法を解説し、また、人為の影響がいかに関自然における生物の多様性を攪乱し減少させたかの様相を知っていただく。

東アジアの歴史と社会（'10）

放送大学教授
(文化情報学プログラム) 吉田 光男

歴史学は、時間と空間という2本の座標軸の中で、人間が営んできたさまざまな「生」の意味をとらえ、語っていく学問です。歴史学研究を行うさいに最大の手がかりとなるのが史料です。本科目は、古代から近現代にわたる中国・朝鮮の具体的な歴史的事象を題材にして、史料を読み取り、歴史研究者としての発見や体験をもとにして、東アジアの歴史を見る視点や分析を行う方法論を提示していきます。4人の講師が、それぞれの専門分野で取り組んでいる研究課題を中心として、各分野における最新の研究成果についてふれながら、東アジアという歴史社会を紡ぎ出していく研究の道程を語っていきます。

歴史研究の基礎となる史料は、文献などの文字資料が主になりますが、ものや語りや芸能など、非文

字資料と呼ばれる多様な資料も重要さにおいて劣るものではありません。多様な史料を駆使し、多角的に人間の営みを解明していくのが歴史研究の醍醐味です。本科目では、講師各自が、それぞれ性格の異なる史料を用いて、独創的な研究を行っていく姿を見せることで、受講生が東アジアという歴史社会の具体的な姿を把握する筋道をつかみ、さらに人間という存在がもっている意味を考える視点を提供していきます。

史料を分析し、歴史を研究する方法は一つではありません。研究者ごとに違うと言ってよいでしょう。本科目ではその多様性に触れ、歴史研究の方法を鍛えます。



吉田 光男 教授

才能と教育（'10）

—個性と才能の新たな地平へ—

放送大学教授
(人間発達科学プログラム) 岩永 雅也

関西大学教授
(放送大学客員教授) 松村 暢隆

世紀の変わり目と相前後して、日本の子どもたちの学力低下が問題視されるようになりました。学力の格差拡大も指摘されています。そのような状況で才能教育を論じることは、時代に逆行する愚行と思われるかも知れません。才能教育をエリート教育と見なし、それに社会的資源を振り向けることに懐疑的な議論も少なくありません。しかし、そうした現代だからこそ、才能とその教育を正しく理解していくことが必要だと考えます。

多様な才能に応じた多様な教育を考えることは、教育における平等と決して矛盾しません。むしろ、「すべての子どもたちは才能において全く同じ」という幻想の下、むやみに形式的な結果の平等のみを求めることで、発達の可能性は著しく損なわれます。才能を正しく捉え、その多様性を理解し、それへの適



岩永 雅也 教授



松村 暢隆 教授

切な教育方法を考えること、さらにその成果をすべての子どもたちの教育へと敷衍していくことこそ、多様性を受け入れる成熟した文化社会としての日本の教育がこれから取り組んでいくべき最重要課題だと信じます。

これまで日本では、スポーツや芸術といった一部の領域を除き、才能とその教育が真正面から取り上げられることはほとんどありませんでした。そのため、才能一般に関する社会的な共通理解すらできていないのが現状です。本科目は、国内外の実践を紹介しながら才能とその教育について検討するという試みです。広い視野を持ってご一緒に考えていきましょう。

東西に長い静岡学習センター

静岡県は伊豆・駿河・遠江の3カ国からなり、東西に長い街道筋が特徴です。いわゆる「東海道五十三次」では4割をこえる22宿を擁し、現在も新幹線の駅が6つもあります。そのため、三島市の「静岡学習センター」のほか、浜松市には「浜松サテライトスペース」があり、さらに再視聴施設としては「マビック静岡市教室」・「磐田駅前教室」というように、県内4カ所に拠点を置いて学生の皆さんの勉学を支援する態勢をとっています。

面接授業やセミナー

現在の学生数は静岡SC1116名・浜松SS801名、合わせて1917名ですが、できるだけ早く2000名の大台を回復したいと思っています。さいわい、このところ入学者は増加傾向にあり、学生募集の目標達成優秀学習センターとして、新たに始まった理事長表彰を2期連続で受けました。

学生の方々が楽しみにされている面接授業は1学期に30本近く開講し、三島の学習センターだけではなく、静岡・浜松で各8本ずつ、磐田でも1本開講し、それぞれの地域の要望に応えるようにしています。静岡SC8名、浜松SS4名の多分野にわたる客員教員の先生方には、学生の相談だけではなく、1学期に4回のセミナーをお願いし、学生たちはそれぞれの関心に従って参加しています。

学燈会と研修旅行

学生や卒業生の自主的な活動としては、学燈会と同窓会があります。学燈会は放送大学公認の学生団体で、静岡SCでは7サークル（ドイツ語学習会・古典の観賞・ユング研究会・発生の会・英文

会・川柳の会・パソコン教室）、浜松SSでは3サークル（ネットスタディ・英語クラブ・楽卒勉強会）が所属し、それぞれ活発な活動を繰り広げています。

秋に行われる研修旅行も学生の皆さんの楽しみの一つで、静岡SCと浜松SSとで、毎年交互に行っています。行き先や当日の案内など、この研修旅行の企画・実施を担っているのは学燈会です。一昨年は静岡SCの主催で、生糸貿易で財をなした原三溪によって作られた「三溪園」と横浜開港資料館を訪れ、昼食は中華バイキングでした。昨年は浜松SSの主催で、北近江の姉川古戦場・小谷城跡・長浜城・大通寺などを見学しました。今年は静岡SCの主催で、再び政権交代や参議院議員選挙などがあったこともあり、国会議事堂へ出かける予定です。

立ち上がった同窓会

静岡での同窓会の設置は遅れましたが、2年前に浜松同窓会、昨年は静岡同窓会が立ち上がりました。会員は静岡では100名余り、浜松は30名余りですが、幹事による定例会はもとより、講演会や特別セミナーへの参加、懇親ウォーキングなど、活発な活動が始まっています。この11月には両同窓会の交流・親睦を図るため、所長裁量経費を活用して、静岡市で同窓会交流見学会を企画しています。

静岡同窓会の規約には、その活動目的の一つとして、「放送大学の事業普及への協力（募集・セミナー参画・学生へのアドバイス等）」と明記されています。これからは、同窓会とも手を携えながら、静岡学習センターのいっそうの発展を図っていくつもりです。



静岡同窓会設立総会

静岡学習センター

静岡県三島市文教町1-3-93（静岡県立三島長陵高等学校2階）
〒411-0033 JR三島駅北口徒歩3分 電話：055-989-1253



研修旅行（長浜城跡）

兵庫学習センターと姫路サテライトスペース

兵庫学習センターは、平成15年2月に神戸大学六甲台キャンパス内の現在地に移転しました。平成22年度第1学期現在1480名の学生が在学しています。姫路サテライトスペースは、姫路城のすぐ前にある「イーグレひめじ」に平成14年6月に開設され、現在498名の学生がいます。

兵庫学習センターの自慢

兵庫学習センターの自慢の1つはセンターからの眺めです。センターは7階建ての建物の6・7階にあります。建物が海拔160mくらいの所にあり、南側には眺望を遮るものがありません。そのため、神戸の街を上から眺めることができます。また、大阪市と大阪府の南部、紀淡海峡、淡路島に囲まれた大阪湾とその周辺地域が一望できます。空気の澄んだ日の眺めは格別です。昼は昼の、夜は夜の趣があります。

兵庫学習センターのもう一つの自慢は「ホワイエ」と名付けられた空間です。視聴室や事務室は廊下から入るではありません。入り口はホワイエにあります。センターの掲示板もサークルや同窓会の掲示板もここに 있습니다。ここは通路でもあり、休憩や食事の空間でもあり、学生同士や学生・職員間のコミュニケーションの場でもあります。この空間が兵庫学習センターの雰囲気を作るのに大切な役割を果たしているように思えます。

ホワイエ



ホワイエでの談笑

同窓会とサークル

兵庫同窓会の特徴は会員が卒業生と在学生の両方からなるという点です。6月末現在の会員数は、学生会員104名、会員100名、合計204名です。会報の

発行、卒業式当日の懇親会、卒業論文・修士論文の発表会（ポスターセッション）、学生による講演会、見学会などの活動を行っております。今年度からはホームページも開設しております。

兵庫学習センターにはサークルが16あります。

どのサークルも活発に活動しておりますということだけ報告させていただきます。どこかだけを取り上げると叱られますから。



学生研修旅行

毎年、参加希望者が多く定員オーバーで参加できない人が出ます。兵庫の研修旅行は、見学するだけではなく、現地で何かを作ったりするのが恒例です。今年度は宇治・信楽方面ですが、信楽では作陶に挑戦します。これまで、草木染め、サンドブラスト（ガラスの模様付け）、蕎麦打ち、立杭焼きの作陶などをやってきましたが、これによって、見学だけでは違った活発な交流が生まれるように思います。作品はセンターの文化祭に出品されます。



学生研修旅行・飛鳥資料館前庭

姫路サテライトスペース

地下2階にあるため、外部から遮断されて集中できるという感じのする環境です。面接授業や単位認定試験は4階で行いますが、教室に行くまでの通路からみる姫路城はすばらしいものがあります。姫路独自のサークルもありますが、同窓会、サークル、学生研修旅行などは兵庫と合同で行っています。

兵庫学習センター

神戸市灘区六甲台町2-1（神戸大学六甲台キャンパス内）〒657-8501
阪神「御影駅」、阪急「六甲駅」、JR「六甲道駅」から神戸市バス36系統
鶴甲団地行「神大正門前」下車すぐ 電話：078-805-0052

平成22(2010)年度第2学期面接授業科目の追加登録

学習センター支援室

10月から始まる第2学期面接授業について、空席がある科目は追加登録をすることができます。

空席発表日	10月16日(土)	
追加登録期間	10月～1月開講の授業	10月22日(金)～科目ごとに定められた追加登録受付期限日
	2月開講の授業	10月22日(金)～1月8日(土)まで

空席状況(追加登録の対象となる科目)は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ(<http://www.campus.ouj.ac.jp/ouj/>)でお知らせします。受講したい科目をご確認のうえ、登録受付期間内に、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースへ申請してください。

※申請の際は必ず、学生証(コピーは不可)・授業料をご持参ください。

※申請の方法等詳しくは、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースへお問い合わせください。

放送大学エッセイコンテスト2010年度作品の募集

学習センター支援室

第3回放送大学エッセイコンテスト2010年度作品の募集しております。多くの方の応募をお待ちしております。



テーマ	「放送大学から広がる世界」
応募資格	放送大学の全学生
応募内容等	①エッセイは、2000字以内。日本語で書かれたもの(未発表のものに限ります) ※ワープロ、手書きなど読み易い文字で作成してください。 ②エッセイ本文のほか、タイトル、氏名、学籍、所属(コースまたは専攻)、学生種、所属学習センター、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)を記入してください。 ③応募数は、1人1編に限ります。また、応募作品は、返却いたしません。 ④作品は、放送大学の教育や普及啓発の目的のため使用させていただきます。
提出先・問合せ先	放送大学学務部学習センター支援室 エッセイコンテスト担当
提出方法	郵送またはキャンパスネット内の告知版「エッセイコンテスト」から投稿
提出期限	2010年10月15日(金)消印有効
選考・発表	選考委員会で選考のうえ、入選者には2011年2月中旬にお知らせします。
入選作品	最優秀1点、優秀3点、佳作6点 ※入選者には、賞状及び副賞を授与いたします。また入選作品は、ホームページ、ONAIR等に掲載の予定です。

編 集 後 記

今回の特集は健康がテーマでした。日本人の長寿は世界的に有名です。昔、留学生寮に住んでいたことがあり、タンザニアの厚生省のお役人と知り合いました。彼女は日本人の長寿に関心を持っていました。ある日、「あなたは野菜が多く、肉が少なく、大豆が好きだね」と言われました。鋭い観察眼に敬服しました。裏事情は、経済的理由で肉が少なく、BSEが怖くて豆乳を飲んでいただけだったのですが、「日本人は健康的だわ」と感心され、面映かったです。

先日、人間ドックに行き、健康的な生活習慣について自省しました。しかし、終了後に渡される食事券で思い切り高カロリーのものを食べることに…。ご馳走はなぜ高カロリーなのでしょう？(原田順子)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成22年度)

- | | | |
|--------|--------------|---------|
| 委員長 | 教授 | 松村 祥子 |
| 委員 | 教授 | 高崎 絹子 |
| | 准教授 | 岡崎 友典 |
| | 准教授 | 原田 順子 |
| | 教授 | 青山 昌文 |
| | 教授 | 杉森 哲也 |
| | 教授 | 生井澤 寛 |
| | 准教授 | 大西 仁 |
| | 千葉学習センター所長 | 教授 宮崎 清 |
| | 東京文京学習センター所長 | 教授 桂井 誠 |
| 編集事務担当 | | 総務部広報課 |

